

担当教員: 佐野 彰

テーマ: 脳と認知過程について

「情報」と問われると世間的には計算機や通信を連想しがちですが、本来「情報」とは意味解釈を含む過程です。計算機のプログラムや様々な記号も、使用者がそれをどのように意味付け、また理解するかということに立脚して存在しています。そんな意味解釈の在り方を規定している我々(人間を含む)の認知過程と、その理解に対するアプローチの仕方(失敗を含む)を考えてみたいと思います。

実施形態: とくに研究室があるわけではないので、基本的にはどっかその辺での輪講を想定しています。ただし、脳の話はいわゆる心理学のレベルから分子生物学として捉えられるレベルまで広い裾野をもっているなので、参加者の興味によってできるだけここかのレベルに的を絞りたいと思います。また、折に触れてごく単純な認知心理実験などで、我々が現実だと信じている世界の不安定さを体感してもらうのも良いかもしれません。

教科書、参考書等: 輪講のネタ本は参加者の中で相談して決めたいと思います。

例えば、

- 脳と計算論、外山啓介・杉江昇編、朝倉書店、1997.
- 脳の計算理論、川人光男著、産業図書、1996.
- 認知発達と生得性、J.L. エルマン他著、乾敏郎 他訳、共立出版、1998. Rethinking Innateness, A connectionist perspective on development, J.L. Elman et al., MIT Press, 1996.
- 岩波講座認知科学、岩波書店、1994.
- ニューラルシステムにおけるカオス、合原一幸編著、東京電機大学出版、1993.

など。

備考: ● ご自分の脳をお持ちの方であれば予備知識の有無はどちらでもいいです。
● 体系的な知識を得ることをお望みの方には向かないかもしれません。
● もし希望する人があれば担当教員と話してみてください。I-538 にいますが、捕まらないようならメール (sano@math.ryukoku.ac.jp) で連絡してみてください。質問なども同様です。